



# 広東餃子房西神戸店の摩訶不思議誕生秘話！

## 店主の話 vol.3

皆様ようこそ来店下さいました 私は店主の山本でございます。

本日も 食事の間に箸休めとなる私の体験したお話をいたします。

三回目の今回は伊川谷の広東餃子房が開店した当時のお話です。

平成 15 年（2003 年）5 月、当時てんじくは明石駅前でココナッツピアガーデンを夏季に営業しておりました。

その用意に冷凍1トントラックで玉津インターから明石川沿いに南へ下っていた時のことです。

旧神明道路（21 号線）と交わっている所に上明石橋があります。信号を過ぎた所、右に四ツ橋組という会社がある道路上にとんでもないものを見付けました。

大きな蛇（多分青大将）がしっぽの方を車に踏まれのたうっていたのです。

車の通行量が多かったので通り抜けようと一瞬思いましたが、そのままだと必ず後続車に轢かれるため、蛇前に車を止め周りの迷惑そうな眼の中、近くに落ちていたビニール袋とビニール傘でつかみ、左側は明石川の堤防で鬱蒼とした草藪でしたのでその草むらに「気を付けてな」「車道に出て来るなよ」と言いながら放しました。

手には握った時の太い感覚が残り結構きついものがありました。小さな頃より絵本で浦島太郎・舌切り雀・笠地蔵・花咲かじいさん等を読んで神様からの褒美を期待していた私は子供の頃から虫や動物を助けるのを常としていたものでした。その事があってすぐの頃でした。其処から東へ旧神明沿いに行った所にある土地が新聞に近畿財務局の競売物件として出ているのを見付けました。土地は 226 坪、現地に行くと道から 2 メートル弱下がった土地で以前には畑として使われていた様でした。



現地

間口も結構あったので入札することにしました。

今まで3回入札が行われていましたが誰も入札していませんでしたので土地値は下がり路線価よりもだいぶ下がっていました。

いよいよ落札日が過ぎたのですが一向に連絡がありません。

ネットにも落札者名が公表されません。どうい事だろう？と思っていたところへ財務局より電話があり、あなたは金額の前に「¥マーク」を入れ忘れていたため入札できませんでした。との事でした・・・¥マークでそんなに大事なの？笑い話にもならないと落ち込んでいましたら、他に入札がなかったため今なら最低価格で購入できますとのこと。入札した時はある程度上乗せしてしまっていたので「¥マーク忘れ」がラッキーな事になりました。



当時の写真

その土地が手に入ったのですが、隣との境には杭だけで同じ畑に見えたので隣の地主さんにお話を伺おうとご住所を調べてお会いしたら、大蔵谷にお住まいの方でてんじく西明石店によく見えるお得意様でした。オタクならうちの土地も売ってあげるといふことになり、その土地が37坪で計263坪になりました。

西隣に焼き肉屋さんがあったので挨拶に伺うと少し前に閉店されているようでした。



当時の様子

調べてみると破産物件で今度は裁判所の競売物件でした。

当時は明石裁判所が担当していて今までに3回入札したが不調に終わっていた様でした。私は次の入札に参加することにしました。

その時は個人を含め3者の入札があったのですがラッキーな事にうちが落札できました。そこが80坪で計343坪かなり広い土地になりました。

そこで、図面を書き埋め立てることになりましたがうちがいつも仕事を頼む業者さんに、今は都合がつかないと断られ困りました。

今思い出してもどういふ経緯で知り合ったのか分からないのですが、その時出現されて助けて頂いたのが四ツ橋組（蛇を助けた場所の直前の会社）の専務取締役のUさんでした。

Uさんは建築地の近くの方々とも知人が多かったこともあり、順調に工事が進みました。まだ話は続きます。



当時の様子

その奥の地主の会社にUさんから声を掛けて頂いたところ、良い返事を頂き売って頂くことになりました。90坪程でした 計433坪で間口55メートルという大きな土地となりました。

ここらあたりで私の頭の中は、ラッキーな事が続くのと蛇を助けたことが関係しているような気がしてきました。建物も焼き肉屋さんの建物を利用し照明や自動ドア・座布団までその店の物を利用して頂きました。建築中もラッキーなことは続きます中国から輸入した瓦が薄く弱かったので、京都・兵庫・岡山の全瓦葺き業者様にFAXを入れ「使い古した雰囲気の良い瓦を分けてください」と頼みました。その時返事を沢山頂いたのですが京都からの返事で、有名なお寺や神社の瓦は廃棄するのも官庁の許可がいるためダメだということを知った次第です。返事を頂いた中に魚住の業者様から現場から近く西区の櫛谷という所の古い蔵の屋根を葺き替えるからと連絡を頂きました。行ってみると大きなお屋敷の立派な蔵の本葺屋根瓦でした。

瓦を一枚一枚壊さないように降ろして頂いて、現場までトラックで引き取りに行き一枚一枚私達で洗いこの店に使わせていただきました。

こうして皆様に助けていただきながら広東餃子房は無事誕生する事になりました。



当時の施工の様子



## 追記

今現代も不思議な話があります。

当店の東側にこんもりした結構広い土地があります。

盆近くになると水やお花が供えてあるのですが、墓石は無い  
ため私はペットの墓地だと思っていました・・・

草で覆われていたため、田舎出身で草刈り機を使うのはお  
手の物の私は何回かオープン当時は草を刈っていました。

すると草の中から大きな骨が出て来るのです。どう見ても人  
間の大腿骨に見えるのです！



ただの雑草地と思ったら花立が・・・

ある日其処を掃除されている人を見て話を聞いてみると、こちら辺りは大正の時代まで土葬だったそうで現在は  
違う場所に墓地を変え墓石も移したとのこと。

昔墓石のあった子孫の方が盆近くには花を手向けていると聞きびっくりしました。

そのことを夜の店長に話すと「アーそれで」と驚くので聞いたところ、夜閉店してから不思議なものを見るとい  
うのです・・・

あれは幽霊なんですねというので私も「エー」となり詳しく聞くと、何も悪いことは起こらないとのこと  
で怖くはないと言っていました、

夜勤務している人は度々見るらしいです・・・

私はさすがに現代に幽霊？と思っていますが、その時思わず「仲良くしてください・又紹介してくださいね」と  
訳の分からないことを言ったものです。



伊川谷の広東餃子房